

R7 年度「渋川高校独自のキャリア教育 i Program」の取り組み

■ 「i Program」概要

“I will program myself.” 生徒一人一人が自分自身の将来を計画すると同時に、その過程で様々な“i”（例えば interested・inspired・innovative・independent 等）を獲得できるように企画されたのが、渋川高校のキャリア教育“i Program”です。

自分の興味・関心・適性のある分野で個人研究テーマを設定し、総合的な探究の時間などを利用したゼミ活動を通じて、探究しながら進路実現に向けて考えを深めます。インターンシップや大学・企業見学会、分野別の講演会も設定され、広い視野も身につけられます。

■ R7 年度の主な取り組み

5 月 i-Pro 発表会（全学年）

3 年生のゼミ代表 6 名が個人テーマ探究の成果をプレゼンテーションの形態で発表し、個人探究活動の総括とするとともに、1、2 年生の個人テーマ探究の指針となりました。代表生徒とテーマは下記のとおりです。

- 齊藤 洋希（3-1） 『新型 WindowsOS を人気者にする～君は Windows を「最高の相棒」にできますか～』
鈴木 悠太（3-1） 『お金が欲しい人の話』
樋田 朔（3-3） 『香りで人は恋をするのか』
中島 奨（3-4） 『2050 年の世界共通語は何になっているのか』
松井 大翔（3-4） 『これから売れるアイドルとは！～歴史から学ぶ戦略と功績～』
藤井 啓人（3-5） 『オタクを魅了する“沸き曲”の構成』



7 月～8 月 職業人インタビュー（1 年）

夏休み期間を利用して、職業について調べ、自分の進路を考える目的で、自分の興味のある職業の職業人を探し、インタビューを行いました。実施後、クラス内でインタビュー内容を発表し、「何のために働くのか」という問いに対する考察を文章でまとめました。



7 月～8 月 オープンキャンパスプログラム（2 年）

夏休み期間を利用し、オープンキャンパスの日時、大学の所在地や交通手段など、すべてを自ら調べ、計画を立て、オープンキャンパスに参加しました。実施後、クラス内で発表会を開催し、進路に対する意識を高め、新たな気づきを得たりしました。

8 月 インターンシップ（全学年希望者）

群馬県庁、日産サテリオ高崎、新島短期大学、前橋赤十字病院、北毛病院、群馬中央病院、日高病院、パース病院にて、14 名の生徒がインターンシップに参加しました。職場でのマナーや対人関係の大切さ、協調性を学ぶとともに自分の将来を考える良い機会となりました。

10月 i-Pro 校外研修会（1年）

クラス単位で企業・研究所を見学し、職業観を育成すると同時に、大学見学では、大学の雰囲気を感じ取り、進路への意識を高めてきました。訪問先は下記のとおりです。

- 1組 東京大学 → 日立システムズ
- 2組 慶應義塾大学 → 有明水再生センター
- 3組 駒澤大学 → JAXA 調布航空宇宙センター
- 4組 読売新聞 → 早稲田大学
- 5組 信州大学 → IHI エアロスペース



11月 i-Pro 講演会（1年）

幅広い分野で活躍する社会人（渋川高校同窓生）5名を講師としてお迎えし、ご自身の仕事に関することや仕事をする上で大切なことをお話いただきました。お話の中で、後輩にあたる渋高生へのエールもいただき、1年生の社会への関心を深めるとともに、進路に対する意識が向上しました。講師と演題は下記のとおりです。

元朝日新聞社経済部長 高橋 純一 様（S49年卒）『①情報を見極める ②メディアの仕事』

染色史料蒐集家 新井 正直 様（S50年卒）『糸・布・衣 魂を包む物作り』

広島大学大学院人間社会科学研究科教授

桑島 秀樹 様（S63年卒）『美を語り、感性を覚醒させ、文化のかたちを問う
ーシブタカで説く僕の生の哲学ー』

国立天文台教授重力プロジェクト長

都丸 隆行 様（H1年卒）『かがくしゃのおしごと』

東京都健康長寿医療センター研究所

大澤 郁朗 様（S53年卒）『科学とは疑い考えること』



11月 i-Pro 講演会（2年）

大学の講師を招いて普段とは異なった専門的な講義を受けました。個人探究活動のテーマに沿った内容の講義を受講した生徒にもテーマとは少し異なった内容であった生徒にも、探究活動の参考に大いになり、進学への意欲を高めることができました。講師と演題は下記のとおりです。

群馬大学 小澤 満津雄 先生

『コンクリートは火に弱い？（コンクリートの耐火性のお話）』

埼玉医科大学 奥村 高広 先生

『いのちのエンジニア「臨床工学士」「人工心肺、スタートします。」』

前橋工科大学 森田 哲夫 先生

『環境にやさしいまちづくり・災害に強いまちづくり』

新潟大学 須川 賢洋 先生

『サイバー犯罪と法』

高崎経済大学 関根 雅則 先生

『経済学と経営学—イノベーションと経営戦略の観点から—』



1～2月 i-Pro 個人テーマ探究ゼミ発表会（2年）、Locus グループ活動発表（1年）【予定】

■ 総合的な探究の時間

1 学年

「自分を知る・社会を知る」をテーマに、上記取り組みの他、探究型ケーススタディ（マイナビ Locus）を実施しています。身近な「地域」に着目して、課題特定・課題解決の提案に挑戦します。

2 学年

「専門領域の理解を深める」をテーマに、上記取り組みの他、個人探究を実施しています。

3 学年

「発信力を身につける」をテーマに、卒業後の進路について深く考えるプログラムを実施しています。前半の「志望理由書の作成」や「グループディスカッション」では、発信力を身に付けます。後半の進路個人探究では、自分に適した進路の検討、実現への受験戦略立案を行います。

■ 国際理解教育

－「国際理解授業」県立女子大学外国語教育研究所、高大連携の英語授業（1年生全員対象）

異文化や国際問題の理解を図るアウトプット中心の授業です。ネイティブスピーカーの講師の指導のもと、1年生が英語コミュニケーションⅠの授業で学んだ内容をさらに深めました。最初は恥ずかしがっていた生徒もいましたが、積極的にコミュニケーションを図り、コミュニケーションを楽しんでいました。英語でのコミュニケーションに自信が持てたり、今後の英語学習への意欲が高まったりした生徒も多かったようです。

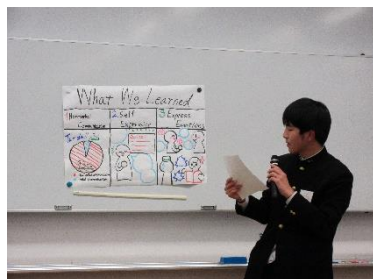


－「2025 年冬アメリカ・ロサンゼルス研修」※他校との合同企画（1, 2 年生希望者）

今年度初の試みで、本校生徒 12 名の他に、他の群馬県内外の高校の生徒合計 24 名で、冬休みを利用し、ロサンゼルスでの 8 日間の研修プログラムに参加します。県内や他県の優秀な生徒と切磋琢磨できることが魅力のプログラムです。語学学校での英語研修の他に、UCLA キャンパスツアーや NBA の観戦も予定しています。一番の目玉はホームステイです。クリスマスホリデーというアメリカでは家族で過ごす大事な時間を体験することで、アメリカ文化を肌で感じるができるでしょう。

－県立女子大学外国語教育研究所「2024 年度 英語特別セミナー」“Think about the issues around you Seminar”（R5 年度、R6 年度実施したものと同様のプログラムを今年度も実施予定）

アウトプット中心の授業を通し、英語を使ったコミュニケーション能力の向上と自己表現能力に磨きをかけるプログラムです。前年に引き続き、令和 6 年度も 2 日間に渡り行われました。渋高生は積極的に取り組み、英語でのコミュニケーションに自信が持てたり、今後の英語学習への意欲が高まったりしたようです。



－県立女子大学外国語教育研究所「明石塾」参加など

様々な機関や大学等が実施する国際理解教育プログラムを生徒に案内しています。令和 6 年度、7 年度と連続で、上記「英語特別セミナー」に参加した 2 年生が、さらなる深い学びを求め、「明石塾」に応募し合格、現在も研修を重ね、その中でも積極性やリーダーシップを発揮しています。12 月のシンガポール・マレーシアでの海外研修に参加しました。2 月には総まとめとして英語でのプレゼンテーションを予定しています。（左の写真は令和 6 年度の修了式の様子。右の写真は今年度の研修風景です。）

